平成 24 年度 海外研修報告書

日本リハビリテーション医学会 国際委員会
委員長　花山　耕三
海外研修担当委員　青木　隆明

平成 24 年度日本リハビリテーション医学会海外研修助成による研修が終了したので，下記の通り報告する．

記

井口　はるひ（東京大学大学院）
参加会議名：Annual Meeting of Dysphagia Research Society
開　催　地：The Fairmont Olympic Hotel, Seattle, Washington, U.S.A.
参 加 期 間：平成 25 年 3 月 13 日～ 16 日
発表演題名：Electromyography of Swallowing with Fine Wire Intramuscular Electrodes：Effect of Food Consistency on Muscle Activity of Selected Hyoid Muscles（嚥下時の頭頚部筋の活動強度について）
発表の成果：10 分間の発表時間に加え，5 分間の質問時間が設定されており，会場内の 3 人の研究者から質問をいただきました．また発表後の休憩時間に，発表内容について他の研究者からも解釈についてのアドバイスを受けることができました．

平野　哲（藤田保健衛生大学病院）
訪問研修施設：Department of Mechanical Engineering, Massachusetts Institute of Technology
所　在　地：Cambridge, Massachusetts, United States of America
訪 問 期 間：平成 24 年 10 月 1 日～ 6 日
訪問研修の成果：リハビリテーションロボットの研究を行っている研究室（Department of Mechanical Engineering, Massachusetts Institute of Technology）を訪問し，最新のリハビリテーションロボットに関する知見を得た．また，同研究室のミーティングにて，日本にて研究中のリハビリテーションロボットについてプレゼンテーションを行い，研究の進め方等についてディスカッションを行った．

受託者である Hermano Igo Krebs 教授が臨床研究を行っているリハビリテーション病院 2 カ所（Burke Rehabilitation Hospital，Blythedale Children's Hospital）を見学し，実際に上肢訓練用ロボットを使ったリハビリテーションの様子を見学した．また，Krebs 教授とリハスタッフとのミーティングにも参加し，リハビリテーションロボットの臨床研究を行う上で参考となる話を伺った．

ボストン市内のリハビリテーション病院（Spaulding Rehabilitation Hospital）を見学し，歩行訓練用ロボット（Lokomat，ReWalk）を用いたリハについて，同院の研究者とディスカッションを行い，最新の知見を得た．

Krebs 教授が設立した，リハロボット開発を行うベンチャー企業（INTERACTIVE MOTION TECHNOLOGIES, INC.）を見学し，商品としてリハビリテーションロボットを普及させる段階においての問題点や，使用者の教育について知見を得た．

畠中　めぐみ（森ノ宮病院）
参加会議名：2012 ACRM-ASNR Annual Conference：Progress in Rehabilitation Research
開　催　地：Vancouver, Canada
参 加 期 間：平成 24 年 10 月 9 日～ 13 日
発表演題名：Finger tapping variability as a marker for cerebellar ataxia and response to rehabilitation
発表の成果：森之宮病院では「小脳失調症に対する短期集中リハビリテーションの効果にする無作為比較研究」を行い 2012 年に報告した（Neurorehabilitation and Neural Repair. 2012；**26**（5）：515–522）．今回はそのサブ解析として，手指タッピング定量評価を行い，タップ変動が小脳性運動失調の臨床的特徴やリハビリテーション転帰のバイオマーカーとして意義があることを発表した．脊髄小脳変性症に対する包括的リハビリテーションの検証は世界的にも大変少なく，本邦のリハビリテーション医学のアウトカムを米国リハビリテーション学会でアピールする貴重な機会をいただいた．また，神経リハビリテーションの高名な先生方と課題指向介入研究の問題を議論する場も得られて，今後の研究デザインの手がかりが得られた．

＜特別助成　AOCPRM 2012 ＞

伊藤　真梨（川崎市立川崎病院）
発表演題名：Difference of cortical activation pattern during motor execution and motor imagery assessed with simultaneous near-infrared spectroscopy（NIRS）and electroencephalography（EEG）in patients with stroke

大沢　愛子（埼玉医科大学国際医療センター）
発表演題名：Cerebral Microbleeds and Cognitive Dysfunction after Primary Stroke

*海外研修印象記はリハニュース 58 号（2013 年 7 月 15 日発行）に掲載予定です．